

倫 理

(解答番号 ~)

第1問 以下は、高校生KとRの会話である。これを読み、下の問い(問1~10)に答えよ。(配点 28)

K：昨日の番組見た？ ㉑科学の進歩はすごいね。一番印象的だったのは、将来

㉒人工知能搭載の人型ロボットが人間の代わりに働く社会になるって話！

R：見たよー。ロボットが色々やってくれたら、人間はもっと㉓自由になるね！

K：だねー！ あと、ロボットに頼って暮らすようになると、㉔人間同士の関係が疎遠になって、感情的なつながりが希薄になっていくって話もあったなあ。

R：あったあった。ロボットと友達になるだなんて、多分無理だろうしね。つらいときはいつでも慰め合うような深い結び付きがあってこそその友達なもの。

K：え？ そんな傷を㉕舐め合うような関係が友達なの？ むしろ、批判し合いながら精神的に自立した強い㉖個人を目指して一緒に高め合うのが友達でしょ？

R：いや、人間は根本的に弱いから友達と㉗助け合うんでしょ。でも、そのためにはまず、お互い気持ちから何から全部わかってるくらいの関係でない。

K：ぶっ、㉘プライバシーもないってこと？ その距離感は少しおかしくない？

R：それくらいじゃないと、いつでもすぐに助け合おうとは思えないかなって。

K：えーっ、いつでも助けてもらおうなんて甘えだよ。一人でも強くなれないと。

R：……さっきから強く強くなって、求め過ぎだよ！ 失恋や挫折で傷ついたときに、友達に泣き付くくらいの弱さがあったっていいじゃない！

K：なるほどねえ……ただやっぱり、弱いからって助けや㉙支援を常に当てにするのは依存の状態なんだと思う。それだと個人として㉚成長できないよね？

R：んー、成長は大事だけど、でも、自分が強くなる代わりに、他人の弱さを㉛気に留めなくなって一人平然としてるのなら、それこそロボットみたいじゃない？

K：そっかあ。人間は不完全で弱いから、お互いの欠点を批判して高め合うためだけじゃなく、支え合って一緒に生きてくためにも、友達が必要になるんだね。

R：うん。でも、こっちの言い分も、ちょっと極端だったのかも。弱さを認め合うのも大事だけど、友達と共に成長していくことも忘れちゃいけないね。

- 問 1 下線部②に関して、次の文章は、科学および科学的な知識について論じたクワインの思想の説明である。文章中の **A** ・ **B** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 **1**

クワインによれば、科学的な知識に関する様々な命題や言説は、 **A** となる。このことをクワインは、「ノイラートの船」という比喩を用いて説明した。それによると、船にどのような不具合があるのか、また、どこに不具合があるのかは、航海中にしか確認できない。しかも、一から船を造り直すためのドックや陸地も存在しない。そのため、船に何らかの問題が生じて、船員は船内にある有り合わせの部品で修理をして間に合わせながら航海を続けるしかない。科学について、この船と同じように考えるのならば、理論に何か問題が生じて、どこかを少しずつ修正しながら、知識の体系それ自体を維持していくしかない。クワインによる、科学についてのこのような捉え方を、知の **B** と呼ぶ。

- ① **A** 個々別々に独立して成立し、それぞれ単独で検証の対象
B パラダイム
- ② **A** 個々別々に独立して成立し、それぞれ単独で検証の対象
B ホーリズム
- ③ **A** 互いに結び付いた一つの集まりとして捉えることにより、検証が可能
B パラダイム
- ④ **A** 互いに結び付いた一つの集まりとして捉えることにより、検証が可能
B ホーリズム

倫理

問 2 下線部①に関して、次の二つの図は、日本の就労者 1,106 名とアメリカ合衆国の就労者 1,105 名に対して、「人間は人工知能(AI)に仕事を奪われると思うか」と、「AIの普及に伴って、今後どのような対応や準備を行うつもりであるか(複数回答可)」を質問した結果である。これらの図から読み取れることとして最も適当なものを、次ページの①～④のうちから一つ選べ。 2

図 1 人間は AI に仕事を奪われると思うか

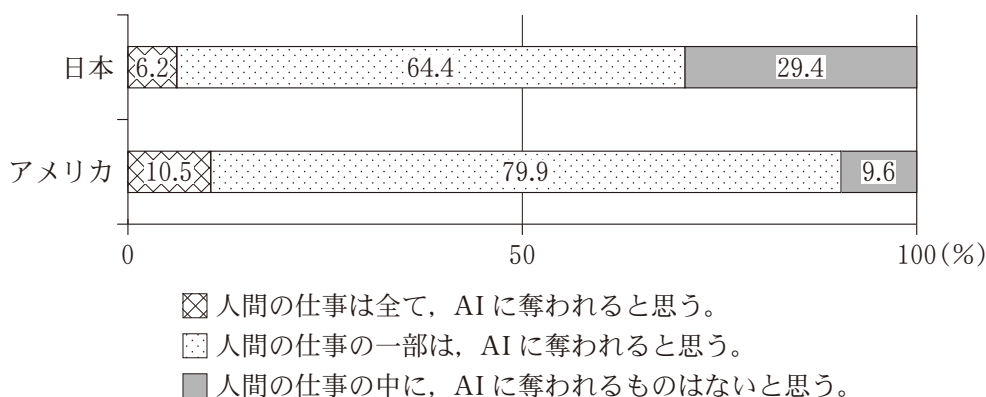
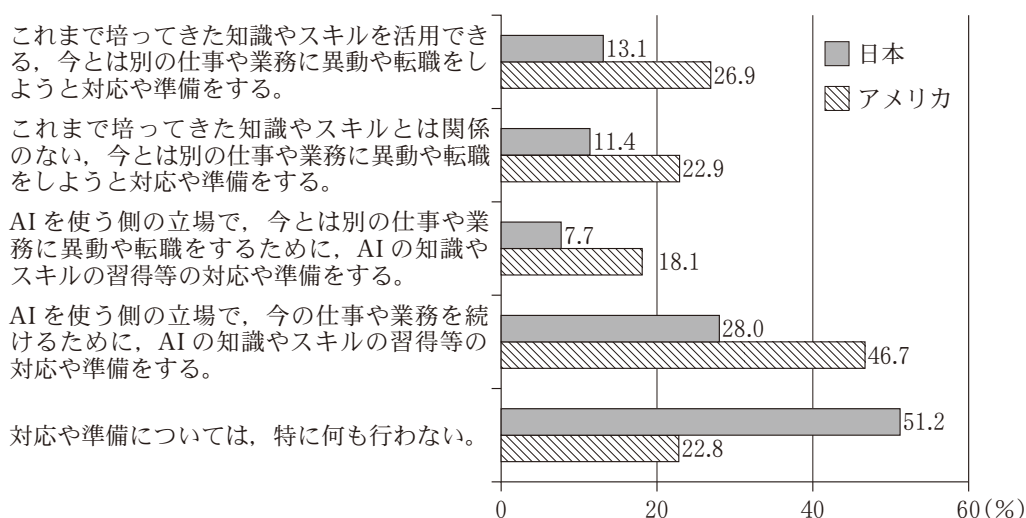


図 2 AIの普及に伴う今後の対応や準備(複数回答可)



(資料) 総務省『ICTの進化が雇用と働き方に及ぼす影響に関する調査研究』(平成28年)より作成。

- ① アメリカの就労者で、AIを使う側の立場で仕事や業務をするために対応や準備をすると答えた人の割合は19%未満であり、また、11%程度の人は、全ての仕事がAIに奪われると思うと答えている。
- ② 日本の就労者で、仕事の一部をAIに奪われると思うと答えた人は64%程度であり、また、これまで培ってきた知識やスキルで今とは別の仕事や業務をしようと呼びかけると答えた人の割合は、25%程度である。
- ③ アメリカの就労者で、今の仕事や業務を続けるためにAIの知識やスキルを習得すると答えた人の割合は65%程度であり、また、人間の仕事がAIに奪われると思うと答えた人の割合は、日本よりも多い。
- ④ 日本の就労者で、人間の仕事がAIに奪われると思うと答えた人は80%未満であり、また、何も対応や準備をしないと答えた人の割合は、アメリカのその2倍以上である。

倫 理

問 3 下線部㉔に関連して、個人の自由をめぐるノージックの思想についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

3

- ① 自由は、まずもって各人に平等に保障されるべきものであるが、不遇な人々の福祉を実現するために、その自由は制限されなければならない。そのため、あるべき国家の姿は、「拡張国家」ということになる。
- ② 自由は、まずもって各人に平等に保障されるべきものであるが、不遇な人々の福祉を実現するために、その自由は制限されなければならない。そのため、あるべき国家の姿は、「最小国家」ということになる。
- ③ 個人の自由は、最大限尊重されるべきものであり、国家が強制的課税によって富を再分配することは、個人の自由に対する侵害である。そのため、あるべき国家の姿は、「拡張国家」ということになる。
- ④ 個人の自由は、最大限尊重されるべきものであり、国家が強制的課税によって富を再分配することは、個人の自由に対する侵害である。そのため、あるべき国家の姿は、「最小国家」ということになる。

- 問 4 下線部㉑に関して、次の文章は、人間同士の関係を基盤とする「ケアリングの倫理」を提唱したネル・ノディングズが、ケアすることについて論じたものである。その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

4



省略

(『ケアリング』より)

- ① ケアする者にとって大切なのは、他者の苦しみを取り除き、そのニーズを満たすと同時に、自分も他者から同様にケアされることである。そうした相互に利益を与え合う関係の維持が、ケアリングの倫理では目指される。
- ② ケアする者にとって大切なのは、他者の苦しみを取り除き、そのニーズを満たすことである。そして、それによって、たとえケアリング関係が破綻してしまうのだとしても、ケアリングの倫理ではそれが責務とされる。
- ③ ケアする者は、苦しむ他者を前にして、自分もその他者と同じ状態だったのかもしれないと考えるからこそ、その他者に対して道徳的に行為するのであり、そのことが、自身の理想を高めることにもつながるのである。
- ④ ケアする者は、他者の苦しみや欲求に必死で向き合おうとするが、そのとき、少しでも他者に対する責務の念を抱くようであれば、いくら道徳的に行為しても、ケアする者の倫理的な理想は高まらない。

倫 理

問 5 下線部㉔に関連して、個人的特徴であるパーソナリティや能力等の形成についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

5

- ① 人の個人的特徴の形成は遺伝のみに影響されるため、例えば、音楽的才能に乏しい親の子が、一流の音楽家になることはまれである。
- ② 人の個人的特徴の形成は環境のみに影響されるため、例えば、小さな子供と過ごすことが多いと、保育職への適性が備わるようになる。
- ③ 人の個人的特徴の形成は遺伝と環境の両方に影響されるため、例えば、学力は、生来の資質か学習環境かのどちらかだけでは決まらない。
- ④ 人の個人的特徴の形成は遺伝と環境には影響されないため、例えば、ある人が社会的であるかどうかには、本人の努力や意識が強く反映される。

問 6 下線部㉕に関連して、我々の社会では、人々の個人的な助け合いだけでなく、社会全体の仕組みや人々の考え方を変えていくことで、暮らしをよりよくすることが目指されている。そのための取組みや制度についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

6

- ① ノーマライゼーションとは、障害の有無や年齢などに関係なく、誰もが同じ市民として共生できる社会を目指すべきだ、という考え方を意味する。
- ② バリアフリーとは、これまでの働き方を見直し、家庭や地域での個人の時間を充実させることで、仕事と家庭生活との調和を目指すことである。
- ③ ユニバーサルデザインとは、少子化と高齢化が進展していく社会では、高齢者の介護は社会全体で担われるべきだ、という考え方を意味する。
- ④ ワーク・ライフ・バランスとは、性別に関係なく、男女が共に協力し合いながら、個性や能力を十分に発揮できる社会の実現を目指すことである。

問 7 下線部㉔に関連して、現代の情報社会で生じる問題に対しては、プライバシーの権利をはじめとした様々な権利の保障、制度の確立が求められている。次のア～ウは、そうした状況についての記述であるが、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 7

ア 国民が「知る権利」に基づいて、地方自治体や国などの行政機関が保有する情報にアクセスできるよう、地方自治体では情報公開が制度化され、また国レベルでも、それに関わる法律が制定されている。

イ インターネット上の情報は、デジタル化されているためにコピー(複製)が難しく、そのため、「知的財産権(知的所有権)」が侵されてしまう危険性は低いとされている。

ウ 情報技術を使いこなせる者とそうでない者との間に、雇用機会や収入の差が生じてきたため、その差を是正することを民間企業や行政機関などに義務付けた「個人情報保護法」が制定されている。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ② | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ④ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |

倫 理

問 8 下線部①に関連して、世界では、困窮した人々に対して様々な支援が行われており、またその必要性が叫ばれている。そうした状況についての記述として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 8

- ① 難民は、生命の危険にさらされやすく、人権が保障されないことも多いため、難民の保護と生活支援を行う国際連合の機関として、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) が設置されている。
- ② ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイは、女性と子供の権利の確立、および女性の自立の実現のために、世界中の全ての子供に対して質の高い教育が保障されるよう、訴えている。
- ③ 国際連合による支援だけでなく、各国からも途上国への援助などが行われており、日本もその一環として、JICA (国際協力機構) による青年海外協力隊を派遣している。
- ④ 発展途上国の生産者や労働者が搾取されることなく、経済的に自立した暮らしを営むことができるよう、彼らに正当で公正な対価を払うリサイクルの促進が強く求められている。

問 9 下線部①に関連して、人間の成長過程における一段階である青年期についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 9

- ① 社会が複雑化し、社会の中での責務を果たすための高度な知識や技術が多く求められるようになり、一人の人間として自立するためにより長い準備期間が必要になったために、青年期は長くなってきている。
- ② 食生活やライフスタイル、あるいは社会の変化によって身体的・知的な成熟が早まり、青年期の前段階である児童期が消失してしまったために、青年期は長くなってきている。
- ③ 都市化と工業化に伴って学校教育が普及し、子供でも様々な知識や技術が習得可能になり、職を得て人間関係が安定するような実質的な成人の年齢は20歳前後まで早まってきたために、青年期は短くなってきている。
- ④ 社会の流動化と価値観の多様化に伴って、大人として認められるための儀式や儀礼は消失し、心理的・社会的な面での成熟は重要視されなくなってきたために、青年期は短くなってきている。

倫理

問10 本文の内容に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 10

- ① Kは、人間とは、一人でも強く自立した存在になることができ、そうなるべきものであると考える。そして、友達関係は、個人として成長しない不健全な馴れ合いな関係に陥るものなので、人間はできる限り一人でいるべきだと考える。
- ② Kは、相手との間にある境界を全て取り払って濃密に結び付くようなつながりを友達関係だとは考えない。むしろ、友達関係とは、互いにほどよい距離感を保ちつつ批判し合いながら、自立した強い個人となることを一緒に目指して成長し続ける関係のことだと考える。
- ③ 人間とは根本的に脆弱ぜいじやくな存在だと考えているRは、友達同士、まずは助け合いの実践を重ねていき、その結果として、全てを分かち合えるような、濃厚で緊密な関係を結ぶ段階へと至ることこそが、理想的な友達関係のあり方だと考える。
- ④ 当初、感情的に深く結び付き合えないロボットと友達になることはできないと考えていたRは、後に、友達関係にとって、共に成長し続けることも重要であると考えを改め、最終的に、ロボットと友達になることができると主張している。

倫理

第2問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

「かわいい子には旅をさせよ」という諺^{ことわざ}があるように、旅は人間を成長させる。先哲の中にも、旅に出て思索を深めた者がいた。また、人生を真理へと歩む旅に^{たと}譬えることで、小さく弱い存在である①人間の生を考察する者もいた。

旅することは、日常生活では出会うことのない人と出会う機会を与えてくれる。②プラトンは、師であるソクラテスがアテネの市民たちによって刑死に追いやられた後、シラクサなど地中海世界を遍歴し、様々な思想家に出会いながら、アイデア論や哲人政治など独自の思想を確立していった。このような、旅での出会いが新しい考え方に目覚めるきっかけとなる可能性が、③大乘仏教でも説かれた。仏教では教え導く人を善知識と呼ぶが、『華嚴経』では、悟りを求める童子が文殊菩薩の勧めにより旅に出て、仏教徒に限らない様々な善知識との出会いを機縁として悟りに到達する。旅での出会いにより新たな視点や気づきを得ることで、自分一人ではたどり着くことのできなかった、深い認識に到達する可能性が開かれるのである。

さらに、先哲の中には、時に道に迷う人間の生を旅に譬えることで、生のあり方を考察した者もいた。④諸子百家の一人である荘子は、真理の世界に遊ぶ理想の境地を、真理を知らない者の卑小な考えと対比している。その際に彼は、⑤真理への行程を旅になぞらえ、近くへの旅ならば僅かな準備で足りるが、真理へ至るには、どれほどの準備が必要だろうかと問うた。一方、ユダヤ教では、救済を願いながらこの世を生きることが旅だとみなされた。この見方を引き継ぎながら、キリスト教では、「私は道である」と述べたイエスに従うことで、⑥罪人である人間であっても真理である神のもとに行けると信じられた。また、⑦イスラーム教では、「水場に至る道」を意味するシャリーアに従った生活を送ることで、自分では歩むべき道がわからない人間でも救済に到達できると考えられた。人間を、⑧旅の途上にある存在になぞらえたこうした思想では、人間の卑小さが見据えられた上で、そうした人間の生にも、真理へと近づく可能性が認められたのである。

実際の旅と同じく、人生という旅にも、様々な困難があるだろう。それでも、他人と出会い、真理を追求し、進むべき道を模索することの大切さを先哲は教えている。私たちも謙虚に、しかし希望を持って、人生の旅を続けていこう。

問 1 下線部④に関連して、人間の生のあり方について説かれた様々な教えや思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 11

- ① アリストテレスによると、人間は無謀であることも臆病であることも避け、その中庸である勇氣の徳を目指すべきである。
- ② エピクロスによると、人間は本性として快樂を追求する存在であるが、快樂を奪う死の恐怖から逃れることができない存在でもある。
- ③ イスラーム教によると、人間は誰でも、神の規律に従って生きるべきだが、聖職者には一般信徒と異なる特別な規律が与えられている。
- ④ 荀子によると、人間は本来、利己的な存在であるため、礼を学ぶだけでは不十分であり、法律による強制なしに社会は成り立たない。

問 2 下線部①に関して、プラトンについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 12

- ① アイデアの認識を確実にするのは、理性ではなく、憧れという欲求であると説き、アイデアへの憧れに衝き動かされた魂を、翼を持った一組の馬と御者が天上に飛翔する姿になぞらえた。
- ② この世に生まれる前は無知であった人間の魂が、この世に肉体を持って生まれてきた後、感覚に頼ることでアイデアを完全に知ることができるようになると論じた。
- ③ 感覚的次元に囚われた魂を、暗闇の中で壁に映し出された影を真実と思い込む洞窟内の囚人の姿になぞらえ、感覚的世界からアイデアへと魂を向け変える必要があると説いた。
- ④ 理想国家のあり方を、理性と欲望が調和した魂の姿と類比的に論じ、そのような国家では、全ての人が哲学を学び優れた市民となることで、統治する者とされる者の関係が消滅すると述べた。

倫 理

問 3 下線部㉓に関して、大乘仏教についての説明として最も適当なものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。 13

- ① 大乘仏教は、上座部仏教が自らを「小乗仏教」と名のつたのに対して、自らを大きな乗り物に譬えてその立場の違いを鮮明にした。
- ② 大乘仏教で尊敬の対象とされる菩薩とは、在家の信者とは異なり、他者の救済を第一に考える出家修行者のことである。
- ③ 大乘仏教の代表的な経典の一つである『般若経』では、あらゆる事象には固定不変の本体がないと説かれている。
- ④ 大乘仏教は、スリランカから東南アジアへと伝えられ、その後、東アジア世界に広がっていったため、「南伝仏教」と呼ばれる。

問 4 下線部㉔に関して、諸子百家についての説明として最も適当なものを、次の

①～④のうちから一つ選べ。 14

- ① 墨子は、侵略戦争を有利に進めるために、自集団の中で習得した知識や技術を積極的に利用しようとして、各地を奔走した。
- ② 墨子は、道を重んずる立場から、無為自然の理想社会を目指し、自給自足の生活を送る小さな共同体の実現を説いて、各地を奔走した。
- ③ 孟子は各国を遊説して、人間は美醜や善悪といった区別や対立にこだわるが、本来、万物は平等であるという万物斉同の思想を説いた。
- ④ 孟子は各国を遊説して、君主は仁義に基づいた政治を行うべきであり、民衆に支持されない君主は、天命を失ったものとして追放されると説いた。

問 5 下線部㉔に関連して、儒教と仏教における真理の探求についての思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 15

- ① 朱熹(朱子)は、人の持つ本性とは天理にほかならないと考え、心の内のみ存在する天理を探求していく必要性を説いた。
- ② 朱熹(朱子)は、自己の修養により天理に従うことは、家庭や国家、最終的には天下全てがうまく治まることにもつながると考えた。
- ③ ブッダは、正見などの八つの道を集めて八正道として説き、苦しみを滅する実践の集成である集諦として教えた。
- ④ ブッダは、菩提樹の下で苦行の実践を重ねることで悟りを開き、インドの各地を遍歴して、その内容を人々に説法した。

問 6 下線部㉕に関して、人間の罪について考えたイエスおよびパウロの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① イエスは、ファリサイ派(パリサイ派)に倣って、神が与えた律法を遵守できない人々を救われることのない罪人とみなした。
- ② イエスは、自分が来たのは罪人を招くためであると述べ、神の愛(アガペー)は罪人が悔い改めることを条件として与えられると説いた。
- ③ 深刻な罪の意識に苦しんだパウロは、神の命令に背いたアダムの罪が、生まれながらの罪として全ての人間に引き継がれていると考えた。
- ④ 異邦人への伝道にも従事したパウロは、神から十戒が与えられたことで全ての人間の罪が贖あがなわれたと考えた。

倫 理

問 7 下線部㉔に関して，次の文章は，イスラーム教における旅についての説明である。文章中の **A** ・ **B** に入れる語句の組合せとして正しいものを，下の①～⑥のうちから一つ選べ。 **17**

イスラーム教では，巡礼月に行われるハッジと呼ばれるメッカ巡礼が重要であり，**A** とされる。さらに，メッカ以外の聖地への参詣も行われるほか，交易や学問のための旅も神の意志にかなう行為として奨励された。

このように旅に出ることが推奨されるイスラーム教では，旅人についての規定がクルアーン(コーラン)に含まれている。例えば，旅人は，五行の一つである **B** を延期することが許されている。

- ① A メッカを聖地として信じるのが六信の一つ B 瞑^{めい}想^{そう}
- ② A メッカを聖地として信じるのが六信の一つ B 断 食
- ③ A メッカを聖地として信じるのが六信の一つ B ジハード
- ④ A 一生に一度はハッジを行うのが五行の一つ B 瞑 想
- ⑤ A 一生に一度はハッジを行うのが五行の一つ B 断 食
- ⑥ A 一生に一度はハッジを行うのが五行の一つ B ジハード

問 8 下線部①に関連して、次の文章は、トマス・アクィナスが、人間を旅人になぞらえて論じたものである。ここで、人間は、天使のように「至福にある者」および悪魔のように「(神に)断罪された者」と比較されている。この文章の内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 18

至福*が未来のものではなく、既に現在のものであるときには、そこに希望の徳は存在し得ない。そして、それゆえに、希望は、信仰と同じく天国では消失し、その二つとも、至福にある者の内には存在し得ない。

……断罪された者は、至福を可能な善いものと捉えることができない。……したがって、至福にある者にも断罪された者にも希望は存在しない。しかし、旅人には、この旅人が現世にいるとしても煉獄**にいるとしても希望が存在し得る。なぜなら、旅人はそのどちらにしようとも、至福を可能な未来のものと捉えるからである。

(『神学大全』より)

*至福：救済されて最高の幸福にある状態

**煉獄：天国に入る前に軽微な罪が清められる場所

- ① 断罪された者には、自分が救済されて至福に到達するという希望が存在しない。しかし、既に天国にいて至福にある者と、現世を生きていてこれから至福に到達する可能性のある者には、救済の希望が存在し得る。
- ② 断罪された者には、至福が可能であるという希望が存在せず、至福にある者には希望も信仰も存在し得ない。しかし、現世を生きる者には、これから至福に到達することが可能であるという希望が存在し得る。
- ③ 希望は、既に現在において至福にある者には存在し得ない。しかし、現世を生きる者にも断罪された者にも、未来において至福に到達することが可能であるという希望が存在し得る。
- ④ 至福は、既に至福にある者にとっては現在のもの、現世を生きる者にとっては未来的かつ可能なもの、断罪された者にとっては不可能なものと捉えられる。しかし、希望はいずれの者にも存在し得る。

倫 理

問 9 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 19

- ① 旅する中で新たな展開を見せた先哲の思想や、旅に出ることで悟りを得る可能性を示した教えから、他者との出会いの重要性を知ることができる。しかし、人間は弱い存在であるため、真理や救済に近づくことはできないとする考えが、人生を旅に譬えることで表現されることもあった。
- ② 旅での出会いが、一人では気付けない考え方を自らのものとするきっかけとなることを、先哲の生き方や言葉は伝えている。また、人間は弱く小さな存在であるにもかかわらず、真理や救済を目指して生きることができるという考えが、人生を旅に譬えることで表現されることもあった。
- ③ 旅において重要なのは、独自の思想を確立することであり、様々な考え方の人と出会うことは、その可能性を阻害するものであると考えられた。さらに、自ら道を切り開き真理や救済へとたどり着ける人間の偉大さを強調する考えが、人生を旅に譬えることで表現されることもあった。
- ④ 旅に出ることで深い認識に到達することができるのは、人との出会いを避け、自分と向き合う結果であることを先哲は教えている。他方、卑小な存在である人間でも、正しい道を歩めば真理や救済へと到達できるという考えが、人生を旅に譬えることで表現されることもあった。

倫理

第3問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

スポーツの日本代表が「侍ジャパン」や「サムライブルー」と呼ばれている。これは「侍」や「武士道」が「日本の伝統」であると、漠然と思われているからだろう。だが、そもそも「伝統」とは何だろうか。思想の観点から、武士道を例に考えてみよう。

㉑平安時代の中頃、歴史の表舞台に現れた武士たちは、戦闘者として命懸けで主君に献身し、「名を重んじ恥を知る」ことを理想とした。また、戦場での命の儂さ^{はかな}の体験は、仏教的な㉒無常観への共感や、命に執着しない「いさぎよさ」につながった。この「いさぎよさ」には、心の純粹さをよしとする㉓古代以来の理想も反映されていた。こうした価値観が、後に「武士道」と呼ばれる伝統の基礎となった。

ところが、戦乱が終結した江戸期になると、戦闘者の道としての武士道はそのままでは通用しなくなった。そこで、㉔山鹿素行は新たに「士道」を提唱した。これは、武士は㉕民衆を道徳的に指導する為政者であるとする思想である。他方、山本常朝は、戦場という死に場を失った武士の生き方を、「常住死身^{じょうじゆうしにみ}」となり、ひたすら主君や藩を思って献身することに見いだした。こうして、過去から継承された思想は、新たに解釈されることによって、より時代に適した伝統となったのである。

さらに、武士階級が消滅した明治期になると、武士道を㉖西洋思想や近代思想との関わりで「日本の伝統」として捉え直す思想家たちが現れた。例えば、新渡戸稲造や内村鑑三はキリスト教に通じる献身の道徳として、福沢諭吉や幸徳秋水は㉗近代の国家や社会を支える「国民」や「市民」の道徳として、各々武士道を捉えた。しかし、例えば岡倉天心は、㉘茶道こそが「生の技術」としての日本の伝統であり、武士道は自己犠牲を強いる「死の技術」であるとする批判的な見方を示した。そして、現に武士道は、国家のための自己犠牲を強いる軍国主義の称揚に利用されもしたため、戦後になると厳しく非難された。それでも、人々は今なお、武士道や侍という言葉に、何らかの理想やイメージを投影しようとしてもいるのである。

このように、伝統とは、先人たちが過去の思想を継承しつつ、各々の時代状況に応じて新たな解釈を加える中で、形成されてきたものなのである。伝統と呼ばれるものと向き合うとき、大切なことは、この二面性を自覚し、単に漠然としたイメージを投影するだけではなく、批判的な再解釈をしていくことではないだろうか。

問 1 下線部②に関連して、平安時代の中頃に活躍した仏教者についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 20

- ① 民衆に念仏を広めた源信は、市井に入り、道路や井戸の整備、無縁の死骸の火葬などを行ったことから、「市聖」と呼ばれた。
- ② 民衆に念仏を広めた空也は、市井に入り、道路や井戸の整備、無縁の死骸の火葬などを行ったことから、「市聖」と呼ばれた。
- ③ 民衆に念仏を広めた源信は、日本全国を遊行し、生活の全てを捨てて念仏に生涯を捧げたことから、「捨聖」と呼ばれた。
- ④ 民衆に念仏を広めた空也は、日本全国を遊行し、生活の全てを捨てて念仏に生涯を捧げたことから、「捨聖」と呼ばれた。

問 2 下線部①に関して、無常観に関連する日本の美意識についての説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 21

- ① 西行は、各地を遍歴しながら人生の無常を和歌に詠み、それらは後に『山家集』に収められた。彼は、桜の花や月といった自然の風景に思いを託し、「願わくは花の下にて春死なむ その如月の望月の頃」などの歌を詠んだ。
- ② 吉田兼好は、無常な人生をいかに生きるべきかに思いを巡らせ、『徒然草』を著した。「世はさだめなきこそ、いみじけれ」という彼の言葉は、この世は儚く移ろいゆくがゆえに味わい深いとする美意識を表現している。
- ③ 雪舟は、色彩を否定した絵画技法である「水墨画」を大成し、『風姿花伝』を著した。「秘すれば花なり、秘せずは花なるべからず」という彼の言葉は、切り詰められた簡素な表現にこそ、美が現れることを説いている。
- ④ 九鬼周造は、江戸時代から受け継がれてきた「いき」という美意識を哲学的に分析し、『「いき」の構造』を著した。彼によれば、「いき」とは、「諦め」や「意気地」をもって、偶然的で儚いこの世を軽やかに生きる生き方である。

倫 理

問 3 下線部㉓に関連して、古代の日本の思想についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 22

- ① 自然の様々な事物に宿る八百万の神々への信仰が、外来思想の影響を受けることなく、神道と呼ばれる日本独自の宗教として体系化された。
- ② 古代国家が形成される過程で、『古事記』や『日本書紀』が編纂^{へんさん}され、神々の系譜が天皇につながる神話として統合された。
- ③ 日本神話では、天地^{あめつち}はおのずから「なった」のではなく、伊邪那岐命^{いざなのみこと}と伊邪那美命^{いざなみのみこと}の二神の意志によって「つくられた」とされている。
- ④ 罪や悪は、人間の心の中から出てくる穢^{けが}れであると考えられたため、それを清めるための儀式として、禊^{けが}や祓^{けが}があった。

問 4 下線部㉔に関して、山鹿素行についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 23

- ① 朱子学の説く理を道德の基礎として重視し、私利私欲をつつしむ心の修養を説くとともに、儒学と神道を融合させて垂加神道を唱えた。
- ② 朱子学の説く理を道德の基礎として重視し、『論語』や『孟子』などの原典に立ち返ることで、日常的な道德の規範を明らかにすることを目指した。
- ③ 朱子学の説く理が抽象的であることを批判し、私利私欲をつつしむ心の修養を説くとともに、儒学と神道を融合させて垂加神道を唱えた。
- ④ 朱子学の説く理が抽象的であることを批判し、『論語』や『孟子』などの原典に立ち返ることで、日常的な道德の規範を明らかにすることを目指した。

問 5 下線部㉔に関連して、次のア・イは、江戸時代に民衆の生き方を説いた思想家についての説明であるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 24

ア もとは徳川家に仕える武士であったが、出家して僧侶となった。従来の仏教の^{いんとん}隠遁的な傾向に反対し、士農工商のいずれであっても、この世においてそれぞれの職業に専念することが、仏道の修行であると説いた。

イ 農家に生まれたが、独学して農政家となり、幕府にも登用された。人は自然や祖先の恩に徳をもって報いるべきであり、そのために、収入に応じて支出を制限し、そこから生じた余剰を社会に還元すべきであると説いた。

- | | | | | |
|---|---|------|---|------|
| ① | ア | 鈴木正三 | イ | 二宮尊徳 |
| ② | ア | 鈴木正三 | イ | 安藤昌益 |
| ③ | ア | 鈴木正三 | イ | 石田梅岩 |
| ④ | ア | 西川如見 | イ | 二宮尊徳 |
| ⑤ | ア | 西川如見 | イ | 安藤昌益 |
| ⑥ | ア | 西川如見 | イ | 石田梅岩 |

倫 理

問 6 下線部①に関連して、日本において西洋近代思想の普及に努めた思想家の一人として、徳富蘇峰がいる。彼についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

25

- ① 政府主体の欧化主義を批判し、民衆主体の近代化を重視する平民主義を唱えたが、後年は国家主義の立場に転じた。
- ② 幸徳秋水らと共に平民社を設立し、平民主義・社会主義・平和主義を三つの柱とする『平民新聞』を創刊した。
- ③ 明六社で天賦人權論や立憲政治の紹介に努めたが、後年はスペンサーの社会進化論に基づいて国家主義を主張した。
- ④ 結婚を男女の対等な契約と捉えて一夫一婦制を主張し、後年は初代文部大臣となって学校制度の確立に尽力した。

問 7 下線部㉔に関連して、次の文章は、近代日本における「市民」の道德について考えた人物の思想に関する説明である。文章中の **A** ~ **C** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①~⑥のうちから一つ選べ。 **26**

幸徳秋水が師事した **A** は、『三酔人経綸問答』の中で「民主平等の制」とは「国人をして皆学に就きて君子と為るの手段を得せしめ」るものだと述べた。「君子」とは、儒教の伝統において有徳者や有徳な為政者を意味する概念である。また彼は、**B** を翻訳する際、通常は「市民」と訳される「シトワイヤン」を、「君子」の類義語である「士」と訳した。このような、「市民」とはかつての「君子」や「士」のような道德的人間であるとする考え方の背景には、彼がフランスで学んだ、「市民の徳」を重視する **C** という思想の影響があった。

- | | | | |
|---|--------|-----------|--------|
| ① | A 片山潜 | B 『社会契約論』 | C 共産主義 |
| ② | A 片山潜 | B 『自由論』 | C 共和主義 |
| ③ | A 片山潜 | B 『自由論』 | C 共産主義 |
| ④ | A 中江兆民 | B 『社会契約論』 | C 共和主義 |
| ⑤ | A 中江兆民 | B 『社会契約論』 | C 共産主義 |
| ⑥ | A 中江兆民 | B 『自由論』 | C 共和主義 |

倫理

- 問 8 下線部①に関して、次の文章は、哲学者の久松真一が、茶道における一期一会の思想について述べたものである。その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 27

茶事を催す場合、これが一生涯に一度の会であると観念していれば、万事に隙なく心を配り、そこに自己の最善を尽くすこととなる。またこの次にやればよいなどというような心掛けでは、本当に身の入った茶事にはならない。これが済めば同じ会は一生にもう二度とはないと覚悟をもって茶事を催す、それが一期一会である。……「人生は無常である」とはよくいわれることであるが、まことに、私が今呼くこの息の次に、吸う息が果たしてできるかどうかは何人も断言しえないのである。……無常を、絶望としてただ悲観的にうけとれば、生きることを、消極的なものにしてしまうことになるが、もしわれわれが、人生は無常であるからこそ、この瞬間をフルに生きて、充実した生活をしようと覚悟すれば、無常はかえって、積極的な生命肯定の契機となるのである。

（『茶道の哲学』より）

- ① 一期一会とは、その都度の茶事を、次の会をよりよく催すために生かそうと覚悟することである。また、人生においても、その都度の瞬間を未来の目的のために生かす努力をすれば、充実した生を実現できる。
- ② 一期一会とは、その都度の茶事を、次の会をよりよく催すために生かそうと覚悟することである。しかし、人生は無常であるから、その都度の瞬間を一生に一度と覚悟し、全力で生きることで、充実した生を実現できる。
- ③ 一期一会とは、その都度の茶事を一生に一度限りのものと覚悟し、自己の最善を尽くすことである。また、人生においても、その都度の瞬間を一生に一度と覚悟し、全力で生きることで、充実した生を実現できる。
- ④ 一期一会とは、その都度の茶事を一生に一度限りのものと覚悟し、自己の最善を尽くすことである。しかし、人生は無常であるから、その都度の瞬間を未来の目的のために生かす努力をすれば、充実した生を実現できる。

問 9 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 28

- ① 伝統と呼ばれるものは、時代や思想家によって表現は異なるが、常に同じ内容を保っている。伝統とは、各々の時代の人々が、過去を思想を新たな解釈から守り、保存し続けてきたものだからである。伝統と向き合うときには、この不変性と持続性を自覚することが大切である。
- ② 伝統と呼ばれるものも、その内容は時代や思想家によって異なる。伝統とは、各々の時代の人々が、過去の思想を受け継ぎ、そこに新たな解釈を加えることで、変容し続けてきたものだからである。伝統と向き合うときには、この連続性と非連続性を自覚することが大切である。
- ③ 伝統と呼ばれるものは、時代や思想家によって表現は異なるが、常に同じ内容を保っている。伝統とは、各々の時代の人々が、時代を超えた人間の理想を、各々の時代の言葉で語ってきたものだからである。伝統と向き合うときには、この普遍性と多様性を自覚することが大切である。
- ④ 伝統と呼ばれるものも、その内容は時代や思想家によって異なる。伝統とは、各々の時代の人々が、あたかも過去から継承されてきたものであるかのように、無から捏造ねつぞうしたものにすぎないからである。伝統と向き合うときには、この恣意性と虚構性を自覚することが大切である。

倫理

第4問 次の文章を読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(配点 24)

苦しい受験勉強もゴールが近づいてきた。我慢してきた欲求を解放し、大学生生活を謳歌しよう^{おうか}と心待ちにしている者も多いだろうが、生を謳歌するには、何を追い求めればよいのだろうか。近代以降の西洋思想を手掛かりとして考えてみよう。

まず思い浮かぶのは、身体的な欲求を満たすことであろう。ルネサンス期には、㉑キリスト教の権威の下で抑圧されがちであった人間の欲求を罪の意識から解放し、生の喜びを肯定する芸術作品が数多く生み出された。また、17世紀に活躍した社会契約論者の中には、自己保存を目的とした身体的な欲求の充足を、㉒人間の基本的な権利として想定する者もいた。さらに、18世紀になると、快を求める人間の本性を道徳や立法の前提と捉えるベンサムのような功利主義者も現れた。

他方で、身体的な欲求よりも、人間の㉓理性的なあり方を重視した者もいる。カントは、人間が、身体を持つ存在として感性的な欲求に大きく影響されることを認めつつも、道徳法則の尊重を命じる理性的な要求に従うあり方に、人間の真の㉔自由を見いだした。また、㉕J. S. ミルは、功利主義に基づきつつも、身体的な快に対する精神的な快の優位を主張し、その上で、同じく理性を有する他者の幸福に喜びを感じる精神の確立を理想とした。彼らに共通するのは、快を追求する身体的な㉖経験にとどまらない、人間の理性的なあり方への敬意である。

その後、身体と理性の関係は、様々な仕方で捉え直されていく。㉗ニーチェは、身体を顧みずに理性を偏重する者を「身体の軽蔑者」と揶揄し、またアドルノは、自己保存を図ろうとするあまり、身体に具わる衝動を過度に抑圧しようとする「道具的理性」のあり方を批判した。こうした批判に対し、ハーバーマスは、理性を改めて主題化し、他者とのコミュニケーションを支える「対話的理性」の積極的な働きを強調した。その上でホネットは、㉘他者から承認される喜びの感情に着目し、理性的な相互理解に関わる身体的な契機に目を向ける必要性を説いている。

以上のような西洋思想の展開は、人間が、時に対立する身体的欲求と理性的要求とを併せ持った存在であることを、私たちに気付かせてくれる。一方を重視するあまり他方を軽んじることなく、その両者を正しく追求する道を模索することが、生きることを真に謳歌する第一歩となりそうである。

問 1 下線部②に関連して、ルネサンス期以降、キリスト教をめぐって生じた様々な運動や立場についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① 教会中心のあり方を見直し、古典文化の復興を通じて自由な「人間性(フマニタス)」の回復を追求した運動は、ヒューマニズムと呼ばれる。
- ② 人間の自由意志に基づく善行の実践を推奨し、従来の教会の教義に「抗議(プロテスト)」したルターの立場は、プロテスタンティズムと呼ばれる。
- ③ 時代や地域によって変わることのない「普遍的(カトリック)」な教義の確立を目指したカルヴァンの立場は、カトリシズムと呼ばれる。
- ④ イグナティウス・デ・ロヨラの主導の下、信仰を「浄化する(ピューリファイ)」ことを目指した人々の運動は、ピューリタニズムと呼ばれる。

問 2 下線部①に関して、人間の基本的な権利をめぐる社会契約論者の考え方についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

30

- ① ロックは、人間が生来持っている権利として、生命・自由・財産の所有権を認めたが、ルソーは、財産の私的な所有を争いや不平等の源泉とみなし、自らの権利を共同体に譲渡する社会契約の必要性を唱えた。
- ② ロックは、神が君主に与えた権利として、生命・自由・財産の所有権を認めたが、ルソーは、財産の私的な所有を争いや不平等の源泉とみなし、君主の所有物を人々に平等に分配する社会契約の必要性を唱えた。
- ③ ホッブズは、人間が生来持っている権利を守るために、万人が万人に戦いを挑むことを求めたが、ロックは、そうした戦いを絶対的な権力によって制圧することで、人々の権利を保障すべきとした。
- ④ ホッブズは、神が君主に与えた権利を人々の手に取り返すために、万人が君主に戦いを挑むことを求めたが、ロックは、そうした戦いを絶対的な権力によって制圧することで、君主の権利を保障すべきとした。

倫 理

問 3 下線部㉔に関連して、理性をめぐる様々な思想家の考え方についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 31

- ① デカルトは、自己の身体を「私」が疑うことのできない確実な存在とみなし、この身体が直接的に経験するものが、理性による明晰^{めいせき}判明な自然認識の確固たる基礎となると考えた。
- ② スピノザは、自然の諸事物の中に万物を貫く必然的な法則を見いだす理性的認識が、神と自然の同一性を「永遠の相のもとに」把握することを可能にすると考えた。
- ③ モンテーニュは、「私は何を知っているか」と問い続ける懐疑的な精神のあり方を批判し、客観的な真理を正しく認識し得る普遍的な方法を見いだすことが、理性の第一の使命であると主張した。
- ④ パスカルは、複雑な全体を一望し直観的に判断を下そうとする精神のあり方を批判し、単純な原理から始め、理性的な推論を段階的に進めていく「幾何学的精神」の優位を主張した。

問 4 下線部㉑に関して、次の文章は、カントとヘーゲルの「自由」をめぐる考え方についての説明である。文章中の **A** ・ **B** に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 **32**

カントによれば、人間は、感性的存在としては「自然法則」に支配されているが、理性的存在としては「道徳法則」に自ら従うことができる。彼は後者のあり方を **A** と呼び、これこそが人間が享受し得る真の自由であるとした。

他方でヘーゲルは、個々人の内面的な判断の中に自由の根拠を求めるカントの立場を批判し、「最高の **B** が最高の自由である」という観点に基づきつつ、個々人が内的に判断する道徳と、人間関係を外的に規制する法との対立を止揚した「人倫」の中に、真の自由が実現する可能性を見いだした。

- ① A 意志の自律 B 自立性
- ② A 意志の自律 B 共同性
- ③ A 意志の自律 B 功利性
- ④ A 意志の格率 B 自立性
- ⑤ A 意志の格率 B 共同性
- ⑥ A 意志の格率 B 功利性

倫 理

問 5 下線部㉔に関して、J. S. ミルは、他者や社会のために献身するといった道徳的行為を個々人がするようになるには、どのような手立てを講じるのが最も重要であると考えたか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 33

- ① 他者や社会の利益を減じるような行為をした者には罰金や懲役といった刑罰を科す、とする法律を為政者が作ることによって、個々人の行為を外的に規制することが最も重要である。
- ② 個々人による利益の追求が、結果として不平等や抑圧をもたらすことのないよう、労働者階級が団結して社会革命を起こし、共産主義に基づく新たな社会を実現することが最も重要である。
- ③ 他者や社会の利益を減じるような行為をすると、良心による責めを感じるような人間性を涵養かんようすることによって、個々人が自らの行為を内的に規制できるようにすることが最も重要である。
- ④ 個々人による利益の追求は、あたかも「見えざる手」によって導かれるかのように、結果として他者や社会の利益の拡大につながっていくのだから、個々人の行為を自由に放任しておくことが最も重要である。

問 6 下線部㉑に関連して、次のア～ウは、経験のあり方をめぐる様々な思想家の考え方についての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 34

ア ベーコンは、感覚的な経験こそが知識の源泉であると主張し、そうした経験から一般的な法則を導き出す学問的な方法として「問答法」を提唱した。

イ ヒュームは、経験の主体となる自我や精神を、単一の実体とみなす考え方を否定し、人間の心を絶えず移り変わる「知覚の束」と呼んだ。

ウ コントは、経験を越えた原因の追求を批判し、観察や実験によって確かめられる現象の法則を追求する「実証主義」を提唱した。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ② | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ④ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |

問 7 下線部㉒に関して、ニーチェについての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 35

① キリスト教の教義に基づく禁欲的な道徳を、強者の自己肯定に根ざした高貴な者たちの道徳として賞賛した。

② 個々人が、必ずや訪れる自らの死と向き合うことを通じて、本来的な自己のあり方に目覚める重要性を説いた。

③ 既成の道徳や価値観への信頼が失われた事態を正面から引き受け、新たな価値を自己自身で創造しつつ生きることを求めた。

④ 他者や世俗的な出来事の中に埋没し、本来的な自己のあり方を見失ったまま生きる人間を「ダス・マン(世人)」として批判した。

倫 理

問 8 下線部①に関して、次の文章は、人間同士の「承認」関係の重要性を主題化したホネットが、社会的な連帯のあり方について論じたものである。その内容の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 36

省略

(『承認をめぐる闘争』より)

- ① 連帯は、互いに譲歩し合う人間関係のことであるが、現代ではその前提として、自分の業績を、自らが所属する集団の成果と捉え直す経験を通じて、集団全体の意志に従順であろうと感じ得ることが、まずは必要である。
- ② 連帯は、互いに共感し合う人間関係のことであるが、現代ではその前提として、自分の業績が、まさに自分のものとして他者から認められる経験を通じて、自分には価値があると感じ得ることが、まずは必要である。
- ③ 連帯は、互いに譲歩し合う人間関係のことであるが、現代ではその前提として、自分の業績を、他者の恩恵によるものと捉え直す経験を通じて、他者は自分より優れていると感じ得ることが、まずは必要である。
- ④ 連帯は、互いに共感し合う人間関係のことであるが、現代ではその前提として、自分の業績が、集団を代表するものとして他者から認められる経験を通じて、自分は他者より優れていると感じ得ることが、まずは必要である。

問 9 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 37

- ① 近代以降の西洋思想には、個々人の身体的な欲求の充足を是認する立場もあれば、人間の理性的な要求に服することの重要性を強調する立場もある。こうした歴史に学び、時に対立する両者を共に正しく追求することが、生を真に謳歌するためには大切である。
- ② 近代以降の西洋思想では、個々人の身体的な欲求の充足を制限し、人間の理性的なあり方を追求しようとする立場が一貫して支配的である。こうした歴史に学び、身体的な欲求を厳格に制限し、理性的な生き方を正しく追求することが、生を真に謳歌するためには大切である。
- ③ 近代以降の西洋思想では、個々人の身体的な欲求の充足を制限し、人間の理性的なあり方を追求しようとする立場が一貫して支配的である。こうした歴史を反省し、時に対立する両者を共に正しく追求することが、生を真に謳歌するためには大切である。
- ④ 近代以降の西洋思想には、個々人の身体的な欲求の充足を是認する立場もあれば、人間の理性的な要求に服することの重要性を強調する立場もある。こうした歴史を反省し、身体的な欲求を厳格に制限し、理性的な生き方を正しく追求することが、生を真に謳歌するためには大切である。

問題と解答は、独立行政法人 大学入試センターホームページより転載しています。
ただし、著作権上の都合により、一部の問題・画像を省略しています。